

術前化学療法後、外科的切除された胃癌における残存腫瘍面積（Area of Residual Tumor:ART）と予後との関係についての検討

令和 3 年 11 月 22 日 第 3.0 版

1. 研究の対象

2012 年 1 月～2020 年 12 月までに国立がん研究センター東病院で術前化学療法後に手術を受けた胃癌患者のうち包括的同意が得られている方。

2. 研究目的・方法

大腸がんや膵がんなどでは術前化学療法後の術後検体における最大断面で測定した残存腫瘍面積 (Area of residual tumor : ART) が予後と相関するという報告があります。胃癌においても術前化学療法後の術後検体における残存腫瘍量と予後との相関が示唆されています。

術前治療後の胃癌切除例において、切除標本の腫瘍最大滑面における残存腫瘍面積 (ART) の測定を行い、術後の予後予測を含めた組織学的な評価が可能か検討します。ART と予後との関連性を評価することで、実臨床にも応用可能なかたちで、より客観的に治療効果を判定し、今後の治療戦略に活かせる可能性があるかと期待されます。

本研究は 2012 年 1 月から 2020 年 12 月までに胃癌に対し当院で手術を受けられた、およそ 100 人を対象としております。対象となった患者さんの診療録から、その臨床的特徴に関する必要な情報を収集します。また、切除された病変の組織を用いて前述の ART を測定し、予後との関連を検討します。情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

研究実施期間は研究許可日 ～ 2026 年 3 月 31 日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：対象患者さんに関する年齢、性別、喫煙歴、術前治療内容、手術所見（術式など）、画像所見、検査所見（採血など）、病理診断結果（病理病期、脈管侵襲、治療効果判定など）、再発、予後等

試料：手術で摘出した組織

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 胃外科 永田 博美

FAX 04-7131-4724/TEL 04-7133-1111

研究責任者：国立がん研究センター東病院 臨床検査部 科長 石井 源一郎